

公教育や科学ジャーナリズムは、 そもそも何のためにあるのか

市民社会(民主主義社会)では、政府のまちがいの政治的責任を負うのは主権者「市民」である。主権者による政府批判は、お上批判ではなく、自己批判でもあるはず。しかし、批判的思考力や科学リテラシーはしばしば抑制されてしまう。



100万年で800m
1万年で8m
1250年で1m
600年で約50cm

1981年から日本で一番採択率の高い東京書籍中学校理科の教科書に「啓蒙」の最終段階？

主体性をうながすには、社会のしくみを問題にする必要性あり

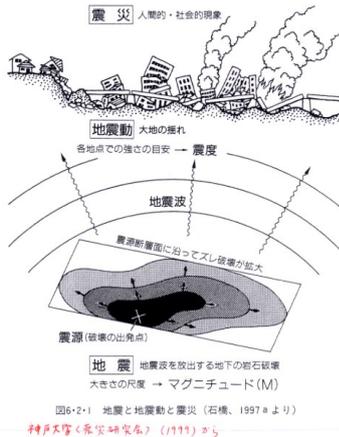
3 変動する大地

1 大地によって大地はどのように変わるか
大地の隆起と沈没は、地殻の厚さや密度の差による。隆起は、地殻が厚くなるか、密度が小さくなるかによって起こる。沈没は、地殻が薄くなるか、密度が大きくなるかによって起こる。

2 地形から大地の変動がわかるか
大地の変動による地形の変化は、海岸線や山脈の位置から読み取ることができる。隆起は、海面上昇や山脈の形成をもたらす。沈没は、海面上昇や山脈の消失をもたらす。

3 地層によって大地の変動がわかるか
地層の傾斜や厚さの変化から、大地の変動を読み取ることができる。隆起は、地層が傾斜するか、厚くなるかによって起こる。沈没は、地層が傾斜するか、薄くなるかによって起こる。

- この問題を考えるための「基礎・基本」と「主体性」の源泉は？
 - 震災・防災につながる震度・マグニチュード理解は？
 - 震災は制御できるし、デザインもできること
- 戦後50年は「地震国」にとってどんな50年だったか
→どんな震災をデザインしたのか



1997年10月号に掲載・大きな問題提起となった

シリーズ■大震災以後(第14回) https://www.twanami.co.jp/kagaku/K_ishibashi_Kagaku199710.pdf

原発震災

破滅を避けるために

石橋克彦

地震列島日本で、原子力発電所(原発)の原子炉が現在51基運転されている(図1)。

通産省¹⁾は、原発は建設から運転まで十分な地震対策が施されているとして、以下の項目を挙げている:(1)活断層の上には作らない、(2)岩盤上に直接建設、(3)最大の地震を考慮した設計、(4)大型コンピュータを用いた解析評価、(5)自動停止機能、(6)大型振動台による実証、(7)津波に対する対策。しかし、本当に耐震安全性は万全なのだろうか。

想定地震に関する致命的誤り

上記のうち(1)と(2)は当然のことであり、(3)が適切かどうかは基本的に重要である。



図1 日本の原子力発電所の分布。数字は運転中の原子炉の数。浜岡発電所は地形が東海地震の予想震源断層の地表投影²⁾内は、浜岡3号炉が炉心溶融をおこしたときその地下埋没の蒸気発生管が破断³⁾(Aは建設フェーズAより事故の際に田中進が設定した基準、Bは白ロケット共同が設定した基準による)をいように設計する。しかし実は、これらの作業の根拠をなす地震の想定が根本的に間違っており、したがってそれにもとづく地震動の評価と耐

原発震災とは

- 地震による被害と原発過酷事故の同時発生
 - 震災への緊急対応を遅らせ、復興を長引かせる
 - 過去の公害事件と同様:「科学(学者)」による人権侵害(功利主義的な価値観で少数被害者の健康、生活が脅かされたままになる)
 - 予想:情報隠蔽・ねじ曲げと低線量被曝問題での混乱
- #現在進行形の問題

予見されていたが防げなかった「原発震災」

- 「石橋氏は東海地震については著名な方のようであるが、原子力学会、特に原子力工学の分野では聞いたことがない人である」(斑目春樹氏)
- 「石橋論文は、書いてあることが相当本質をつくものであれば関連学会で取り上げられるはずだが、保健物理学会、放射線影響学会、原子力学会で取り上げられたことはない」(小佐古敏荘氏)

資源エネルギー庁公益事業部原子力発電安全企画審査課長:雑誌「科学」10月号に掲載された石橋克彦氏の論文に対する見解について(回答)1997年12月24日付静岡県総務部防災局長宛:科学7月号(2011)に転載

ジャーナリズムとは何か

井上正男(北國新聞論説委員・当時)による

- 「ニュースのはたらきは一つの事件の存在を合図することである。真実のはたらきはそこ(ニュース)に隠れている諸事実を光をあて、相互に関連づけ、人びとがそれ(関連付け)を拠りどころとして行動できるような現実の姿を描き出すことである」(ウォルター・リップマン:世論,岩波文庫(1922))。
- ここには、人びとの行動の拠りどころとなるようニュースに隠れている諸事実を掘り下げて関連付ける(大変に苦しい社会的な)作業という、科学者・技術者にも、一般の人々にもできない、近代ジャーナリズムの存在理由が明確に語られている。科学ジャーナリズムを含めたこのジャーナリズムの原点は、これからの電子ジャーナリズムの時代でも変わらない。

ジャーナリズムとは

- 1 ある社会共通の価値観や行動指針となる世論を形成するために、
- 2 同時代に起こっているありきたりではない出来事を
- 3 批判精神をもって価値判断し
- 4 その結果をニュースとして、あるいは評論として
- 5 より速く
- 6 より正確に
- 7 より公平に
- 8 社会に伝えていく
- 9 報道あるいは言論活動

近代ジャーナリズム

- 主権者市民(有権者, 国民)が, 全体の奉仕者である代表者(選挙で選ばれた議員), 議員を含む公務員をコントロールし, それを通して運営される市民社会のなかで, 主権者の思考, 判断のための情報を提供する活動, その成果としての報道, 批評, 論評など。
- 権力監視機能あるいは番犬機能を備える必要あり。
- 市民社会(民主社会)に必須の構成要素。

発表ジャーナリズムとは

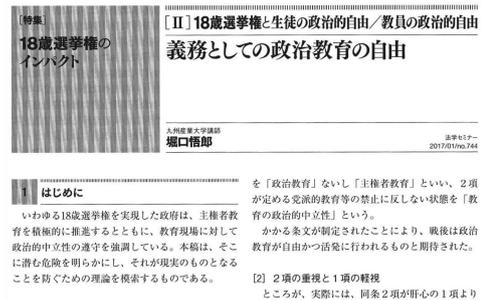
- 発表ジャーナリズム: 情報源からの独立性を欠き, 情報と問題意識を依存したまま, ジャーナリズムの形式をとった情報伝達→広報・宣伝/プロパガンダ(林の認識)。
- 調査報道とは, 政治的な公権力や経済的・社会的権力の活動を観察し監視し, 隠されている真実を明るみに出すという目的で, 取材や資料で得たファクトに基づいてストーリーを組み立て, 読者に魅力的な作品をニュースとして提供することだ(花田達朗(2015))。

発表ジャーナリズムの構造

批判精神(権力監視機能あるいは番犬機能)を欠いた権力への迎合

- 単純なもの: 横のものを縦にする。大本营発表報道, 記者クラブ発表報道。
- より高度なもの: 為政者・権力者の問題意識のままに情報を付加し, 効果を演出したり, あやまちを正す代わりに糊塗したりする。

「誰のため, 何のため」を自省する批判的思考力の有無, 知識や批判的思考力の抑制にまで注意を払おうとするかどうか問われる。



「仮に, 教育の政治的中立性を, かかる行政の政治的中立性と同義に解するのであれば, 教員には政府の意向どおりに政治教育を行う義務があることになる。教員は, 政府の政策の意義を生徒に正しく教えなければならない。野党の政策を詳しく説明する授業は不適切であるし, 政府の政策を批判的に検討する授業などをもってのほかである。しかし, そのような解釈は誤りである。…」

ボイテルスバッハ・コンセンサス (1976年の会議後にドイツで共有)

1. 圧倒の禁止: 生徒を—いかなる方法によっても—期待される見解をもって圧倒し, 自らの判断を妨害することがあってはならない。
2. 学問と政治において議論のあることは, 授業においても議論のあるものとして扱わねばならない。
3. 生徒は, 政治的状況と自らの利害関係を分析し, 自分の利害にもとづいて所与の政治的状況に影響を与える手段と方法を追及できるようにしなければならない。

「政治教育が目指すのはパートナーシップなのか, 現在および将来の政治的行為なのか, それとも合理的な判断能力なのか? ... そもそも政治は秩序として理解されるべきなのか, 解放の原理として理解されるべきなのか? このような基本的対立は, 残されたままである」

近藤孝弘: ドイツの政治教育—成熟した民主社会への課題, 岩波書店(2005)

この要件のもと, 授業者は自らの政治的考察結果を学習者に示すのが可能—日本とのちがいが



「公正中立な科学」とは?

「人権というのはもともと, 強者から弱者を守るための概念であった。したがって, 医学も技術も全ての学問が弱者の立場に立つことを要請されているのだ。たとえば, 医学は中立で, いっぽうの側に立つものではないという意見も根強くあるが, ... 病者の側でない側の医学というものがあるとすれば, それは, 一体, 何を指すというのだろうか」

原田正純: 裁かれるのは誰か, 世織書房(1995)

出発点としてこのような考え方が共有されない限り, 多数者が認める(諦観する)「復興」「償い・救済」「再発防止」「防災・減災」...は可能になっても, 少数意見者を含むすべての人の「生活復興」「償い・救済」「権利回復」...はありえない。

「主張」や「討論」の構造

- (隠れた前提や目的)
↓ ↓ ↑ ↑
- それによって選ばれた事実
↓ ↓ ↑ ↑
- 事実からの論理展開(理科で使う論理は単純)
↓ ↓ ↑ ↑
- 主張(結論)→その応酬, 吟味が討論
- 反対に, 表出する(表象としての)科学コミュニケーションを対象とする考察は, 「隠れた前提や目的」を浮かび上がらせる(上向き↑↑)。